

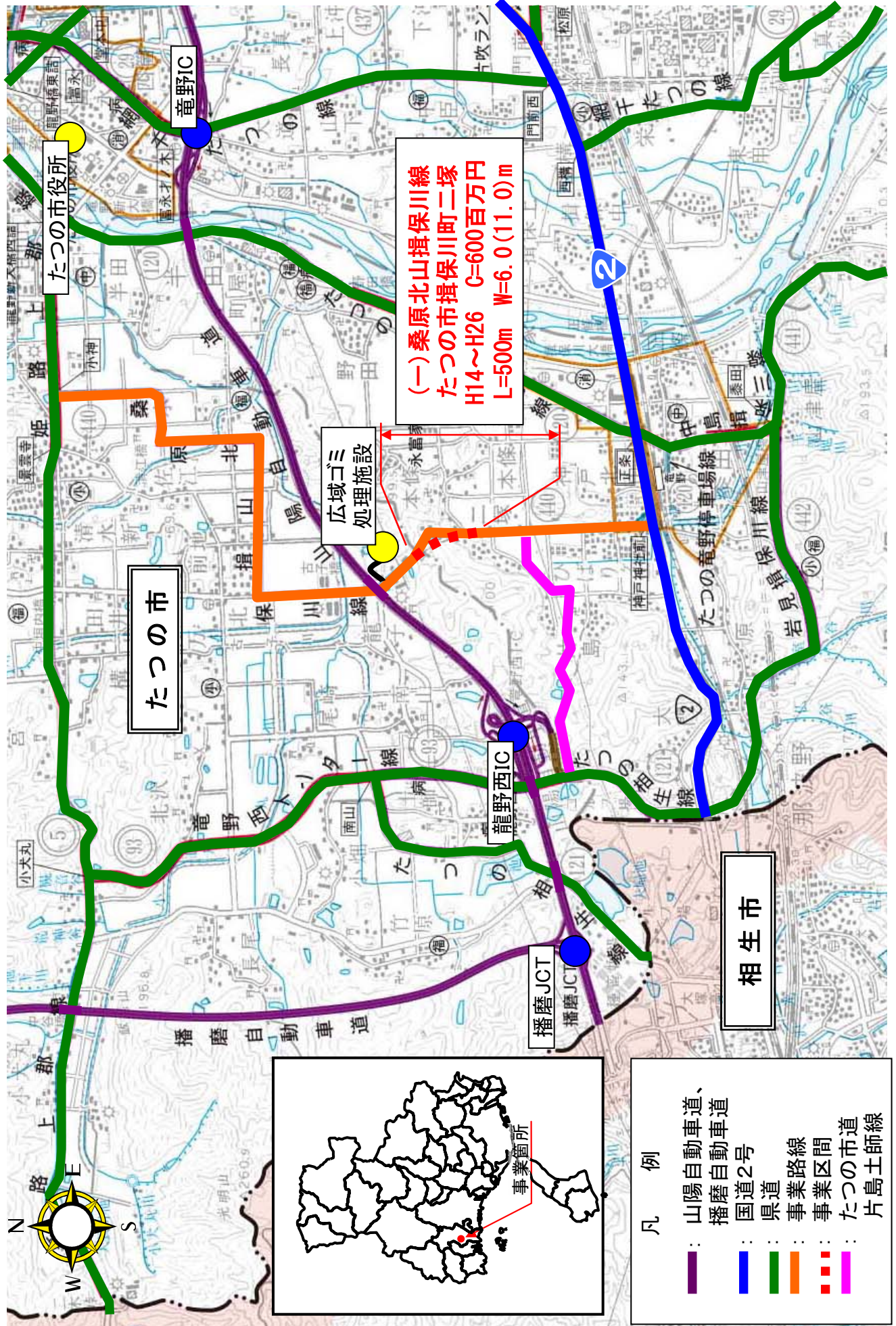
投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 阪出裕昭 (課長補佐 上田英則)	内線	4362 (4376)	
事業種目	道 路	新規評価年度	平成 13 年度	現計画	新規評価時点	
事業名	道路改築事業 (一)桑原北山掛保川線	事業採択年度	平成 14 年度	総事業費	6 億円	8 億円
		着工年度	平成 14 年度	内用地補償費	2.2 億円	3 億円
事業区間	たつの市掛保川町二塚 ^{ふたつか}	完成予定年度	平成 26 年度	平成 17 年度		
所在地	たつの市掛保川町二塚 ^{ふたつか}	進 捗 率 (内用補進捗率)	65% (96%)	— % (— %)		
		残事業費	2.1 億円	— 億円		
事業の目的			事業内容 () 新規評価時点			
<ul style="list-style-type: none"> 一般県道桑原北山掛保川線は、県道姫路上郡線を起点に国道2号に至る、たつの市南部の南北道路であり、地域住民の日常生活を支える生活道路としての役割のほか、広域ゴミ処理施設へのアクセス道路としての機能を担っている。 しかし、当該区間は峠部に位置し、幅員が狭小な上、線形が悪く、さらには歩道も未整備なことから、交通の隘路となっている。 このため、バイパス整備により、安全で円滑な自動車交通を確保する。 			道路改良 L=500m (R) 【構造規格】 第3種3級 (山地部) 【計画幅員】 6.0(11.0)m 2車線+片側歩道 【計画交通量】 5,200 台/日 (5,000 台/日) 【現況交通量】 4,903 台/日 (H22 センサ) 【負担割合】 県：10/10			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 事業着手時と比べ、交通量は増加傾向にある。 自動車交通量 H11 センサ 3,925 台/日 → H22 センサ 4,903 台/日 (1.25 倍) 歩行者・自転車交通量 H11 センサ 152 人台/12h → H17 センサ 198 人台/12h (1.30 倍) 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 <ul style="list-style-type: none"> 用地買収難航のため、完成予定年度を平成 17 年度から平成 26 年度に変更する。 残土処分に係るコストの縮減や地価下落による用地補償費減少により、総事業費を 6 億円に変更する。 					
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業進捗率は事業費ベースで 65%、用地取得率は面積ベースで 96% (平成 23 年度末予定)。 残る用地については、平成 24 年度までに取得する予定である。 用地取得完了後、工事を進め、平成 26 年度の完成を目指す。 なお、事業完成後の現道の管理引継については、たつの市と協議が整っている。 					
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<ul style="list-style-type: none"> 幅員狭小及び線形不良を解消し、あわせて自転車歩行者道を整備することにより、自動車及び歩行者・自転車の安全で円滑な通行を確保する。 広域ゴミ処理施設 (掛龍クリーンセンター) へのアクセス道路としての機能を強化する。 県道龍野西インター線と本路線を結ぶ、たつの市道片島土師線^{かたしまはぜ}が、平成 27 年度に完成予定であり、当該箇所の整備とあわせ、旧掛保川町内の道路網の充実が図られる。 たつの市コミュニティバスのバス路線 (H22. 10. 12 運行開始) であり、バス運行時の安全性、快適性を確保する。 					
(2) 有効性・ 効率性	<ul style="list-style-type: none"> 現道は人家及び墓地が連担していることから、バイパス整備が効率的である。 費用便益比 B/C=1.2 (全体)、3.8 (残) 					
(3) 環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 切土法面については、在来種等による植生の復元を図り、周辺環境の保全に配慮する 歩道部の透水性舗装により、雨水を地下に還元する。 					
(4) 優先性	<ul style="list-style-type: none"> 峠部で交通の隘路となっていること、また、用地取得率が 96%となっていることから、引き続き、事業を推進する必要がある。 地区住民やたつの市からも早期完成を望む強い要望がある。 					
の再 結評 果価	継続	理由	<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性は事業採択時と変わらず、たつの市をはじめ地域からも早期完成を望む声強いことから、継続して事業を実施する必要がある。 			

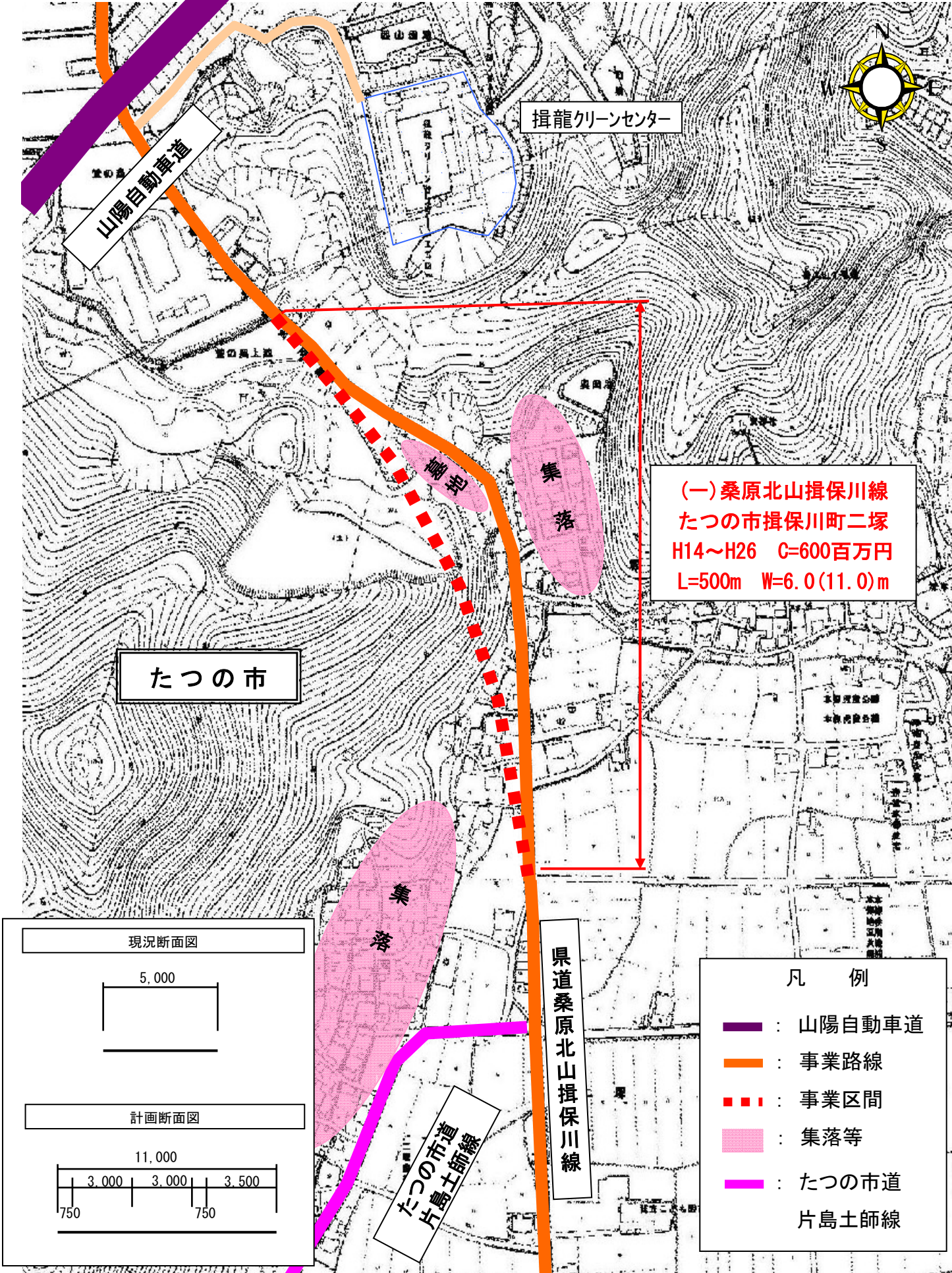
事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	道路改築事業	路線・河川名	一般県道 桑原北山揖保川線
事業進捗状況・予定		整備効果	
全体	H14~26年度【事業費=6.0億円】 延長 L=500m、幅員 W=6.0(11.0)m 工事：道路改築 用地：約 13,000 m ² 補償：4件		
過去 10年間	H14~23年度【事業費=3.9億円】 事業進捗率 65%（事業費ベース） 用地取得率 96%（面積ベース）		
今後 3年間 (予定)	H24~26年度【事業費=2.1億円】 H24年度 用地買収完了予定 H26年度 全線供用予定	H26年度に全線供用予定	

一般県道 桑原北山揖保川線 位置図



一般県道 桑原北山揖保川線 平面図



揖龍クリーンセンター

山陽自動車道

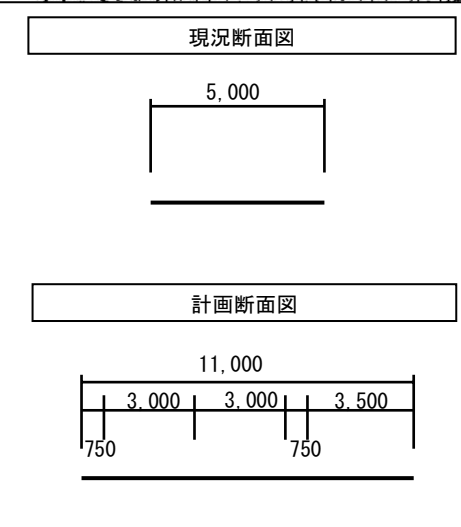
たつの市

(一) 桑原北山揖保川線
 たつの市揖保川町二塚
 H14~H26 C=600百万円
 L=500m W=6.0(11.0)m

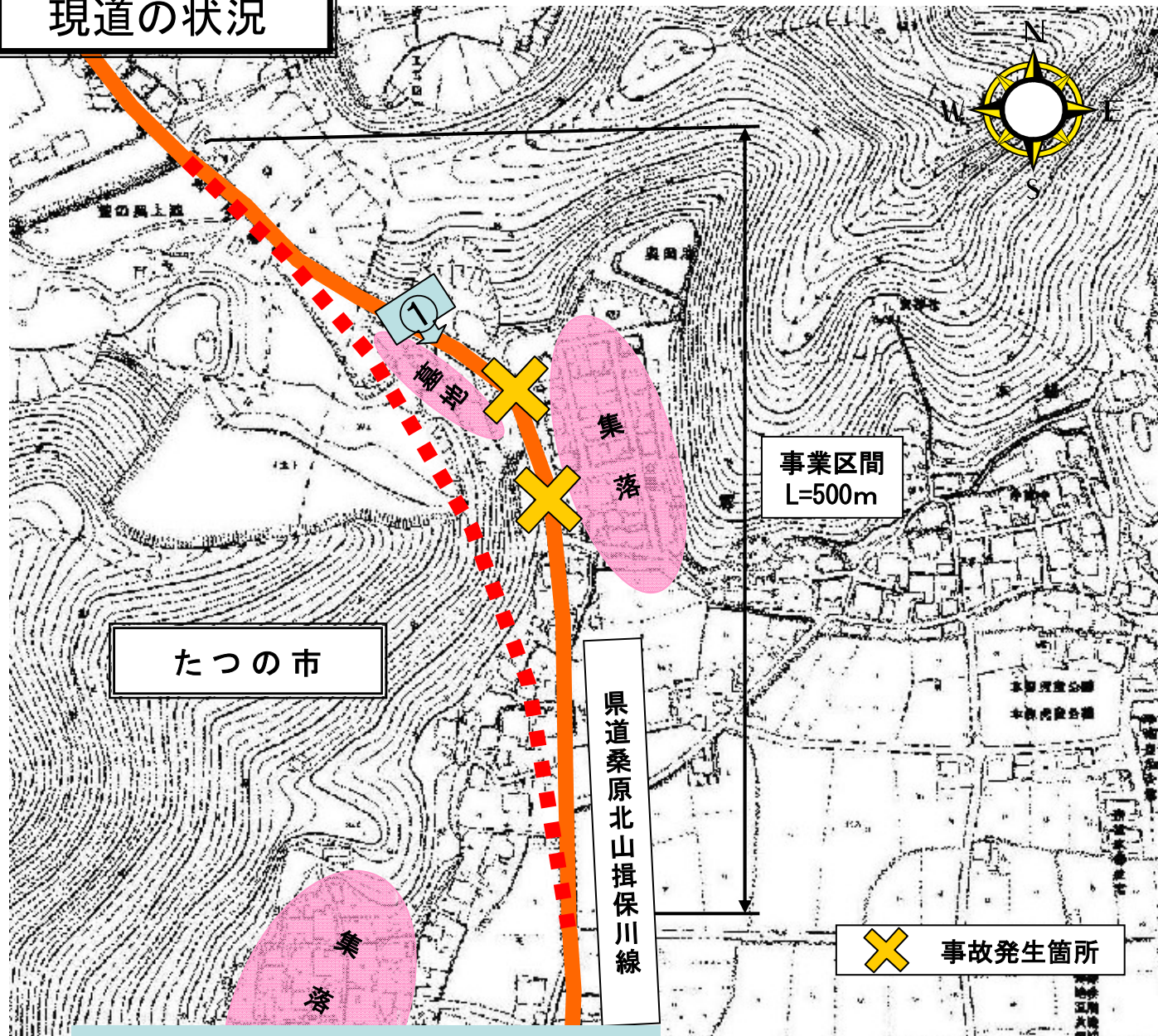
県道桑原北山揖保川線

たつの市道
 片島土師線

- 凡 例
- : 山陽自動車道
 - : 事業路線
 - ■ ■ : 事業区間
 - : 集落等
 - : たつの市道
片島土師線



現道の状況



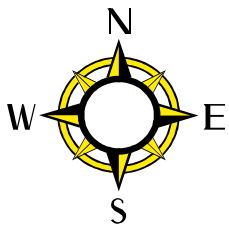
自動車の離合困難

交通事故発生状況

	件数(人身)
平成20年	0
平成21年	0
平成22年	1
平成23年8月まで	1
合計	2

・当該区間は峠部に位置し、幅員が狭小な上、線形が悪く、さらには歩道も未整備なことから、交通の隘路となっている。

事業の進捗状況

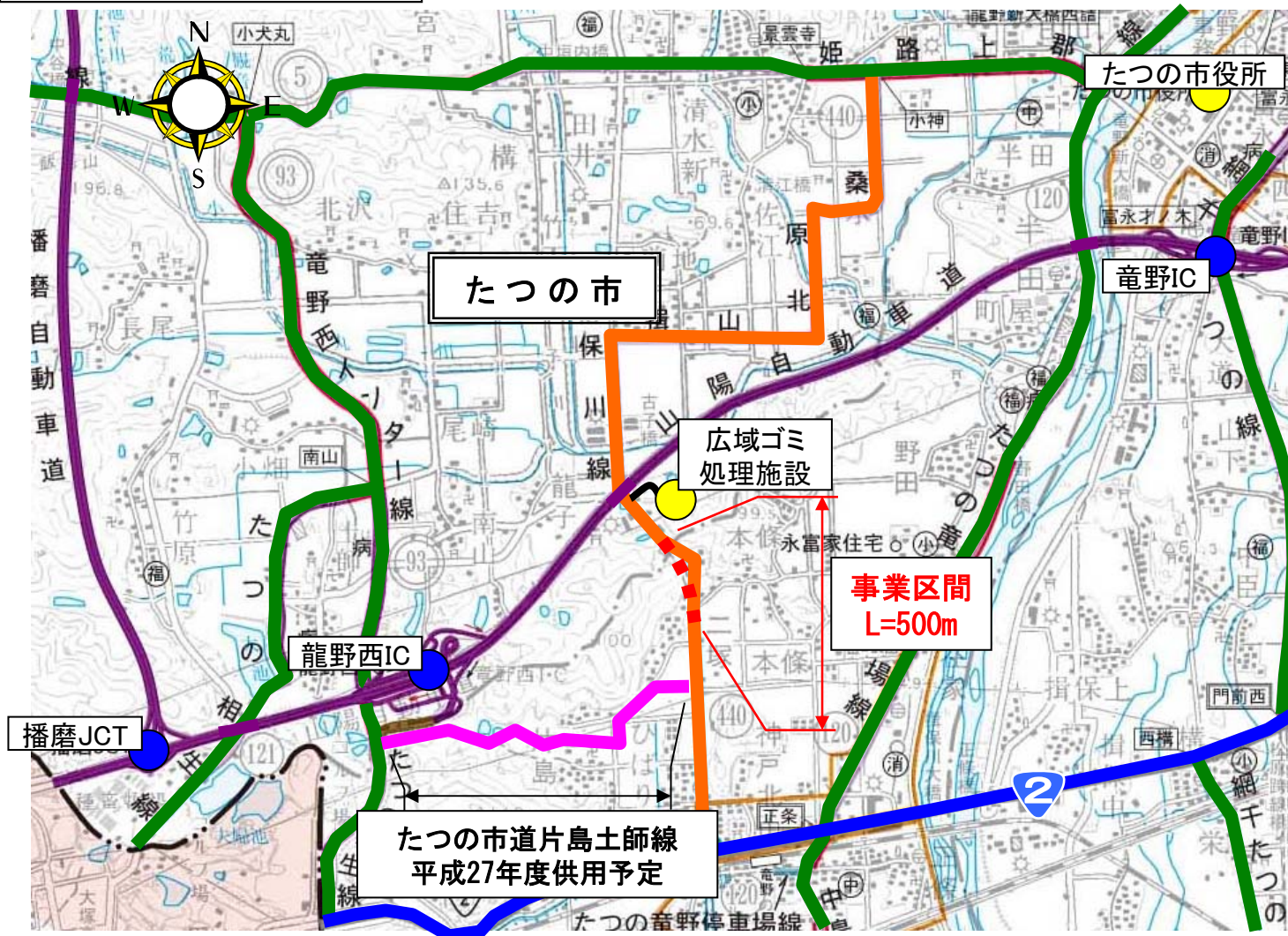


凡 例	
	: H14~H23年度
	: H24年度以降



- ・事業進捗率65% (事業費ベース、H23年度末予定)
用地取得率96% (面積ベース、H23年度末予定)
- ・バイパス起終点 (L=260m) については、街渠工等が完了済み。
- ・残る用地は、平成24年度までに取得予定。
- ・用地取得後、工事を進め、平成26年度の完成を目指す。

事業の必要性



広域ゴミ処理施設(揖龍クリーンセンター)

たつの市・太子町の家庭及び事業所から排出されるごみ(一般廃棄物)を処理するための施設

- かたしま はぜ
- ・たつの市道片島土師線が平成27年度に供用予定であり、当該箇所を整備と合わせて、旧揖保川町内の道路網の充実が図られる。
 - ・広域ゴミ処理施設(揖龍クリーンセンター)へのアクセス道路としての機能を強化する。

1 当初計画及び実施工程

工種	年 度													
	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	
調査・設計	■	■	■											
用地補償	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
道路改良工事		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ : 当初計画 (H13)
■ : 実施計画 (H23)

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までの所要時間が短縮されることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 走行速度の向上や走行距離の短縮により、燃料費などが節減される便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 中央分離帯の設置や通過する主要交差点数の減少により、交通事故が減少する便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{単路部}(\text{交差点以外}) \text{の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)			
道路	一般県道 桑原北山 揖保川線	全体事業費	① 走行時間短縮便益	553	時間短縮効果 8.5分→7.8分 (5.2km [※]) 計画交通量 5,200台/日	632	605	27	1.2
			② 走行経費減少便益	174					
			③ 交通事故減少便益	53					
			計	780					
		残事業費	① 走行時間短縮便益	553	時間短縮効果 8.5分→7.8分 (5.2km [※]) 計画交通量 5,200台/日	205	181	24	3.8
			② 走行経費減少便益	174					
			③ 交通事故減少便益	53					
			計	780					

※ 姫路上郡線から国道2号までの間で算出

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 自転車歩行者道の整備による歩行者及び自転車の安全確保。
- ② 広域ゴミ処理施設(揖龍クリーンセンター)へのアクセス道路としての機能を強化。
- ③ 歩道部の透水性舗装による雨水の地下への還元。
- ④ たつの市コミュニティバスのバス路線の整備。